

ひであきレポート

NO.62 3版



新潟地震・スマトラ沖地震に学び 「災害に強いまちづくり」を！

昨年は相次いで台風が日本に上陸し、その被害は各地に及びました。

また10月23日の震度7を記録した新潟中越地震の惨状や年末にはスマトラ沖地震の大災害をまのあたりにして生活者の安心と安全を確保し「災害に強いまちづくり」に全力を尽くすことこそ政治に携わるものの責任であると肝に銘じています。

12月議会では特に
・耐震診断や耐震補強の問題点
・自主防災組織の課題について取り組みました。



進まぬ耐震補強、補助制度の拡大を！

「あらゆる被害状況は家が倒れるところから始まる」といわれる。

豊橋市は予想される東南海地震の震源域に近く、地盤の弱い沖積性が多く、2割は地盤液状化の危険度が高い地域です。市独自の被害予想調査でも建物被害は全半壊で4万棟に達するとし、建築基準法が強化される昭和56年5月以前に建てられた木造住宅が4万7000棟と6割以上を占める事からも住宅崩壊対策が重要であることが指摘されています。

豊橋市は平成14年度から無料耐震診断を予算化し4000軒の耐震診断に取り組んでいます。

また阪神淡路大震災で全半壊した24万棟の公的負担（解体撤去、仮設住宅、住宅再建支援等）は9326億円。1棟あたり389万円の費用がかかった教訓から、平成15年度から県市で60万円を限度に改修補助金を用意しています。

今年度の豊橋における改修費平均は145万円であり、改修費の約半分を補助していることとなります。

今までの耐震診断の結果、約4割は「危険」の判定。しかし、耐震補強は2年間で180軒という実態です。

決算委員会で伊藤ひであきは「今後、耐震改修を促進するためにこの補助制度の拡大あるいは減免制度なども選択肢として考えるべきだ」と主張しました。

自主防災組織に権限と財源と情報を！

現在、市内には431の自主防災組織が設置されています。

しかし、各々の地域には特性があり、防災上の課題は地域により様々です。その場合、災害弱者リストがバックデータとして必要になりますが、個人情報保護の面から主に福祉行政のために収集した情報が地域に開示されていないという問題もあります。

地域にどのような災害弱者がどのくらい住んでいるのか、その実態がはっきりしないのです。

そこで、あらかじめ災害弱者の方々の了解を得てリストを作成し、これを消防団や自主防災組織が保管しておく、いざという時活用するという方策をとらざるを得ないのですが、これもまだなかなか進んでいません。

住民「共助」こそ防災の要。「その主体である自主防災組織に権限と財源と情報が備えられなければいざという時に機能できない」と実効性のある取り組みを強く行政当局に迫りました。



作り続けて18年、配り続けて18年 市議会宅急便

国立病院・豊橋医療センター3月オープンへ

豊橋の旧国立2病院が統合し、「国立病院機構・豊橋医療センター」として05年3月1日に豊橋市飯村町にオープンします。

414床22診療科を持つ総合基幹病院で「がん、循環器、代謝性疾患、重症心身障害」などはナショナルセンターと連携し、最先端治療が施されます。

また専門的医療や臨床研究、教育研修および情報発信の機能を備えるほか、5階フロアは東三河初のホスピス病棟（24床）で広く注目さ

れています。

新病院は鉄筋コンクリート造り、地上6階、地下1階で地上36m。

なお国立病院は04年4月の独立行政法人化で国立病院機構となり、新病院は「国立病院機構・豊橋医療センター」と名前が変わりました。

市民病院が青竹町に移転し、桜ヶ岡分院が解体され、「西の市民病院、東の国立病院」の並立が待望されてきましたが、いよいよ05年3月にはこのプロジェクトが完成します。

伊藤ひであきは周辺の

道路環境や路線バスなどのアクセスについて推進してきました。

またホスピスの導入に関しては国会議員と連携し実現に努めてきました。

桜ヶ岡分院跡地は04年「総合福祉センター（あイトピア）」として豊橋の福祉の総合拠点になりました。

中野町の国立病院跡地は豊橋の保健の拠点として整備されます。

医療・保健・福祉のネットワークは着々と実現されていきます。



豊橋医療センターの威容



病院内を視察する伊藤ひであき

新潟地震・スマトラ沖地震への真心の募金ありがとうございました

新潟地震の被災者のお役に立てていただきたいと「新潟中越地震被災者を支援する愛知県民の会」の皆さんとともに10月30日（土）、豊橋駅東口で街頭募金活動を行いました。

また1月9日（日）にはスマトラ沖地震への募金活動も同場所で行いま



した。

日本赤十字社を通じて皆様を現地に届けさせていただきました。

18回目の朝倉川の清掃活動を行いました

1月28日（日）午前9時から「朝倉川を守る会」の皆さんとともに朝倉川の清掃活動を行いました。

60人の皆さんに参加していただき約1時間、ごみや空き缶、ペットボトルなどを拾いました。

年々朝倉川はきれいになってきましたが、それでも沢山のごみが集まり

ました。

正月を前に朝倉川の大掃除で心地よい汗をかきました。



国の構造改革の嵐の中で住民による財政や行政のコントロールの仕組みを作らないと「地方分権」は遅々として進みません。

また、その痛みは住民の生活を直撃するだけです。

「まじめに働く人が報われる社会」は「地方政治の強化」と「地方議員の資質向上」とセットでなされなければ展望が拓けません。

頑張ります。お力添えをお願いします。

情報満載！アクセスください



いつでも、どなたでも
市民相談は伊藤ひであきへ
電話 53-3483
迅速・丁寧・即決

<http://www.itouhideaki.com>